

滋賀県近世民家調査（1）

建造物研究室

平成7年度から3カ年の計画で滋賀県近世民家調査を行なっている。滋賀県の近世民家については、先に昭和41～43年の『滋賀県緊急民家調査』(滋賀県教育委員会)があるが、主に近世中期までの民家を対象とした調査であり、近世末期、あるいは近世民家を継承したと考えられる近代初頭の建物までは取り上げられていない。また、近年の都市化の進行や生活様式の変化により、滋賀県でも近世の民家遺構は急速に減少してきている。このような状況を踏まえ、全県下での調査が企画された。

調査の主体は滋賀県教育委員会で、調査委員会は奈良国立文化財研究所建造物研究室を中心として、室谷誠一（滋賀県立短期大学教授）、吉見静子（岐阜女子大学教授）、山岸常人（神戸芸術工科大学助教授）の各氏を迎えて構成された。また調査委員長は建造物研究室長がこれにあたる。

平成7年度は、まず県下各市町村によって一次調査（所在調査）が実施され、50市町村で805件、2095棟の民家遺構がリストアップされた。これをもとに、調査委員会において二次調査（詳細調査）対象を選出した。二次調査は全県で160件程度を対象とする予定であるが、本年度はこのうち、13町の50件63棟について、基本調書の作成、史料収集、聞き取り、平面実測、断面実測、敷地内配置、写真撮影などの詳細調査を実施した。

第1回二次調査は、平成7年10月30日から11月2日の日程で、県北東部の北国街道に沿った余呉町・木之本町・びわ町・高月町の4町を対象地域として実施した。調査件数は20件の21棟である。山間部の中小規模農家や湖畔地域の大型農家、北国街道沿いの宿場町での本陣の遺構などを調査した。近接地域ではあっても、地勢などの条件の相違は民家の形態に大きな影響を与えていたことが確認された。また福井県境地域では、平面構成や構造形式において北陸地方との交流関係を裏付ける遺構を見ることもできた。

第2回二次調査は平成8年1月29日から2月2日の日程で、県南東部の旧東海道に沿った竜王町・野洲町・栗東町・石部町・甲西町・水口町・甲賀町・甲南町・土山町の9町を対象地域として実施した。調査件数は30件の42棟である。旧東海道沿いの町屋や旅籠、野洲川両岸の田園地帯における中規模農家に加え、甲賀地方の在地の武家住宅などを調査することができた。近年の生活様式の変化とともにあって改造をうける民家が多いなかで、往時の姿をよくとどめる遺構も確認することができた。

詳細調査は平成8・9年度も継続し、平成9年度末に報告書を刊行する予定である。（長尾 充）